

「自分たちのまちは、自分たちで守る。」

江戸時代の享保3年（1713年）に、八代将軍吉宗の命を受けた江戸南町奉行の大岡越前守が、町家を火災から守る消防組織として、町火消（まちびけし）「いろは四八組」を設置されたことが、今日の消防団の前身であるといわれています。

当時の消火活動は、火事現場のまわりの家々を取り壊すことにより火事の延焼をくい止める「破壊消防」で、大工やとび職の人たちが中心となって活躍していました。

“自分たちのまちは、自分たちで守る”この想いが現代へと受け継がれているのです。



消防放水体験 たのもしいちびっこ消防団員たち

消防団員が補助し、体験者の安全を最優先に行いました。

ラディアン北側調整池：第三分団協力
(7月22日、二宮町商工会青年部主催「第22回ふれあい広場」にて)

災害に強い二宮町に

二宮町消防団長 柳川 駅 司



秋涼のみぎり、皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。本年度（平成16年度4月1日）より、二見泰弘さんの後任として二宮町消防団の団長を務めさせていただくことになりました、柳川駅司でございます。幼いころより二宮町で生まれ育ち、親しみのある町の団長を務めさせていただくことは、大変光栄であると同時に、このような大役に身の引き締まる思いです。

二宮町消防団広報紙の第2号をお届けします。

消防団員は、通常各自の職業に就きながら、災害時の消火活動、救助・救出活動や、平時の訓練などの防火・防災活動に従事しています。ボランティア的な性格が強く、地域や家族、そして仲間を守るために団結して地域防災にあたる、それが消防団です。（特別職の地方公務員となります。）また、地震・風水害等の大規模災害時には、消防団員が中心となり消防団経験者・地域住民と一丸となった活動こそが、一番大切なことだと考えます。

消防団は、「仕事以外で自分を活かす」「地域の絆を深める」「ボランティアの入口」「新たな経験」「仲間づくり」の場でもあります。サラリーマンの方・自営業の方、地域の防災のためにチカラを発揮してみませんか。

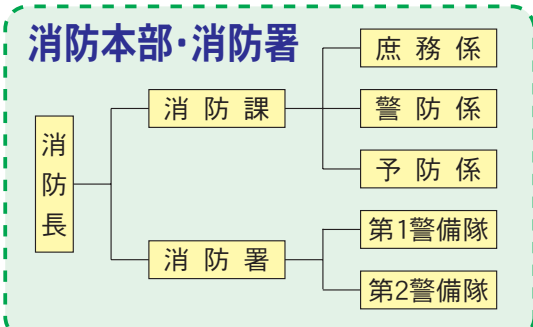
より多くの方々に消防団に参加・経験をしていただき、災害につよい二宮町となることが、私の願いです。

今後も二宮町消防団に対し、なお一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

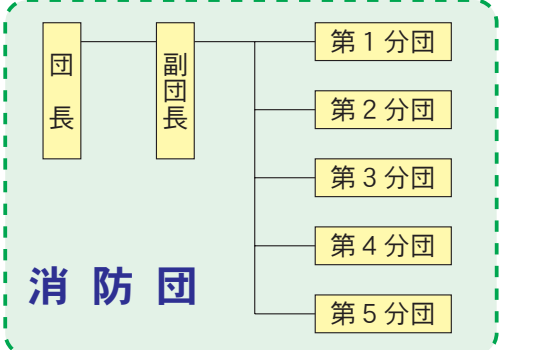
消防の組織

昭和47年2月に二宮町消防本部と消防署が設置されました。

消防分団管轄区域図



消防職員は、現在38人。警備隊は、2交代制で有事の出動体制をとっています。



消防団は、五ヶ分団で組織され、常備消防の協力機関として消防業務の活動をしています。定員は、78人。消防業務が本職ではありません。

消防団の年間活動

- 4月 新入団員訓練 (普通救命講習含む)
- 5月 消防ポンプ性能検査
- 7月 花火大会警備
- 9月 消防団員体力練成大会
- 11月 秋の火災予防運動
- 12月 歳末火災特別警戒
- 1月 消防出初め式
- 3月 春の火災予防運動
- 3月31日 消防団入退団式 (各月定期訓練1回)

活動内容は、各分団ごとに異なる場合があります。

第一分団 (川勾・釜野・越地・茶屋・梅沢)

各自治会より団員が推薦され、消防分団を組織しています。「何をしているかわからない」「知り合いがない」とか消防団が敷居が高く感じられる方がいると思います。



でも、思い切って飛び込んでみてください。楽しい事や素晴らしい体験がたくさんあります。気軽に声をかけてください。



夜間の放水訓練。銀色の服は、刺し子(防火服)です。



消防署

第二分団 (上町・中町・下町) 消防活動は、安全・確実・敏速に！

確実な基本操作をモットーにしております。確実なホース結合・機関操作等、基本が大切です。消防操法等は、それほど難しいものではありません。基本を覚えてもらえれば、後は確認作業です。

有事の際、慌てず確実に操作ができるように基本的な訓練を大切にしています。地域に密着した分団を目指しています。



葛川は、 自然の防火水槽

地震など有事の際、断水等で消火栓が使えない場合があります。そんな時は、防火水槽以外にも葛川の水が使えます。

写真は、実際に葛川より水を吸い上げて放水訓練している模様です。



第三分団 (元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根)

「どんなに水利が遠くても、気力と根性見せてやる！」分団員のまとまりが力となり、意欲的に消防活動を行っています。

昨年(平成15年)10月消防ポンプ車が新しくなりました。最新鋭の機能、タッチパネルといいハイテク装備です。

今年、7月「消防放水体験」を行いました。当日は、大好評で、小さなお子さんをはじめ多くの方に放水体験をしてもらいました。(表紙に写真掲載)

三分団の秘密兵器？ ホースカー

分団ポンプ車で唯一ホースカー搭載。ホース12本収納、総延長距離240mです。遠い水利でも頼りになる装備です。



第四分団 (中里・百合が丘1丁目)

月一度の定期訓練等、仕事が忙しくて、辛い時もありますが、知らず知らずのうちに、大勢の人と知り合うことができるのが魅力です。長い人生においてプラスになる経験ができると思います。我々と一緒に地域ボランティアに参加してみませんか。

消防団活動は整列で始まり、整列で終わります。



↑ 消火栓を水利にして、筒先(前線)へ送水。

第五分団 (一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目)

地元の皆様に愛される分団を目指しています。消防団といっても、普通の社会人の集まりです。消防活動をすることにより、会社と家を往復しているだけでは、経験できない新しい自分が見えてきます。新しく二宮に移住された方でも、大歓迎です。一緒に活動して、みませんか。



神奈川県消防操法大会 第五分団出場 大健闘！五位

平成16年7月28日(水)、厚木市の神奈川総合防災センターで、「第44回神奈川県消防操法大会」が開催された。二宮町より第五分団がポンプ車操法の部門に出場、県内から9チーム参加、タイム・技術の正確さなどを競う。

蒸し暑く時より強風が吹く中、第五分団の順番となった。指揮者の「操作初め」の声とともに操法が開始された。日頃培った技術、きびきびした動きで流れるような操作から放水、的が倒れる。いいタイムが出た。二線延長も早かった。二線放水、的に命中。タイムもそこそこ。ホースを収納し、ホッと一息入れる5名の選手達に安堵感が漂った。応援に駆けつけた町長を初めとする、議会・町内会・消防関係者達の惜しめない拍手の中、第五分団の操法大会は終了した。

結果は、僅差で優秀賞を逃した。わずかなミスが減点であったが、大健闘である。縁の下の力となり、第五分団をまとめて、頑張ってきた橘川分団長、本当にお疲れさまでした。



出番を待ち、体をほぐす選手達



→ スタート直前 緊張の瞬間



↑ 1線放水(放水が描く放物線は……)

2線放水↓



熱い夏！ ～20年に一度の貴重な経験～

操法大会出場が決まり練習がスタートした。様々な職業を持った仲間(団員)が仕事や家庭を任せて集まってくる。20年ぶりの出場とあって意気込み十分で望んだ練習は、大勢の方に応援をいただき、練習を重ねるたびに確実に進歩しました。しかし暑い時期の練習は平均年齢30代後半にとって体力的にきつと感じることもありましたが、それでも日頃の不摂生を反省しながら最後まで病気やケガをする者もなく無事に大会当日を迎えることが出来ました。

大会当日は、天気は良いものの風が強く他の出場隊も苦戦をしいられていました。いよいよ私達の出番です。応援席から檄が飛び、指揮者の号令で操法開始です。練習の成果を遺憾なく発揮し、結果は出場9チームのちょうど真中でした。結果に満足出来たかは別にして分団として貴重な経験が出来たことを感謝し、これからの活動に反映させて行きたい。また今回の出動に対してご尽力を頂いた方々に対し御礼申し上げます。(五分団 K.T)

消防団員募集

「自分たちのまちは、自分たちで守ろう。」

20代・30代の男子の方で分団活動に協力してくれる方を広く募集しています。より多くの方に消防団活動を経験してもらい、地域防災の一翼を担っていただきたく願います。公務災害補償制度有り、任期・活動内容等は各分団ごとにこととなります。

問い合わせ 消防本部 消防課 ☎72-0015



- | | | |
|---------------------------|------------------|---|
| 第一分団 (川匂・釜野・越地・茶屋・梅沢) | 野谷 喜 芳 ☎ 090- | - |
| 第二分団 (上町・中町・下町) | 池 田 昌 隆 ☎ 090- | - |
| 第三分団 (元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根) | 松 本 重 則 ☎ 090- | - |
| 第四分団 (中里・百合が丘1丁目) | 城 所 征 四 郎 ☎ 090- | - |
| 第五分団 (一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目) | 橘 川 敏 一 ☎ 080- | - |

消防団は、通常は自らの仕事を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の人たちのため、社会のために活躍されている人たちの集まりです。